

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

賃上げは経営者の志だ 森雅彦 (DMG森精機社長)

1. 物価は上がっているのだから、賃金は上げないといけない。値引きを抑えて、生産性を高めて、増えたグロスマージン（粗利益）の2～3割を社員に分配する。日本はこの30年間、定価を上げるという発想がなかった。しかし、ドイツは毎年価格表を作って、定価を数%上げている。「安さ」を売りにしている国は絶対に良くならない。賃上げはいたずらに金額だけ増やしてもだめ。時給を上げないといけない。
2. 残業時間を増やして賃金が上がるのもだめ。理想論とは思いますが、理想を追求しないと意味が無い。「色々あるんだよ」と言い出したら、何もできない。今の日本はそういう人の塊だ。例えばドイツでは社長と従業員の給料が何割以上離れてはいけないといったルールがある。副社長は社長の何割ぐらい、取締役は、一般の従業員の平均年間給与の50倍を超えてはならないと定めている。日本企業もこういうルールを作るべきだ。そうして社長や役員の給与を上げればいい。すると、みんなの給与も上がって、内部留保が適切に減る。
3. 企業規模にかかわらず、賃上げは経営者の志だ。賃上げするとなれば、値付けの段階から自社のブランド力を見つめ直すことになる。強い体質にだってなれる。

(参考:「日経ビジネス」2025年2月17日号)

経営者のための理念・哲学

続ければ気づく力が付く**上甲晃 (志ネットワーク「青年塾」代表)**

1. 松下幸之助が言っていたのは、知識や技術は道具にしか過ぎない。それを使う人が立派な人間にならない限りは、どんな優れた知識、技術を身につけても本当の意味で生きてこないということです。先ず何よりも、よき人間をつくること、いいことを知っているというのではなく、いいことができる人を育てなければならないということです。
2. イエローハット創業者・故鍵山秀三郎は、続ければ気づく力が付くとおっしゃってました。たまにやるだけでは気づかない。やっぱり毎日やっているとだんだんいろんなことに気づくようになる。気づく人になる秘訣は、一つのことを欠かさずやり続けることだと。だから私は青年塾の塾生にも言います。人生を変えようと思ったら、特別なことはしなくていい。当たり前のことをしっかりやることで人生は変わるんだと。志さえあれば、あらゆる困難はその志を磨いてくれる糧（かて）になると思います。

(参考:「致知」2025年5月号)

経営者のための危機管理

パナソニックが「聖域解体」

1. パナソニックホールディングスの楠見雄規社長は、テレビ事業を2025年末までに撤退か事業売却かを検討することになった、と語った。専門店にとってテレビブランド「ビエラ」がなくなることの意味は計り知れない。テレビ事業は、これまで業績不振に陥るたび経営改革を行ってきたパナソニックにとって手が出せない「聖域」だった。
2. パナソニックが白黒テレビ発売の1952年から手がけてきたテレビ事業は、多くの経営幹部やOBにとって思い入れのある花形事業。それでも大ナタを振るうことを決意した。
3. 2月4日発表した経営改革の中身は3つある。1つ目が低収益事業は撤退か売却を検討する。2つ目が、家電などを手がける「パナソニック株式会社」を解散し事業再建を進めること。3つ目は、エネルギーやソリューション事業に注力することだ。これまで経営危機に陥るたびにリストラを実施し、多くの血を流してきたパナソニック。今度こそ生まれ変われるのだろうか。

(参考:「週刊東洋経済」2025年2月22日・3月1日号)

古典に学ぶ

動き始めるのは一日でも早いほうがよい

1. 空海の生きた次代は医療も発達しておらず、疫病の流行や災害もあり、今よりも何倍も厳しい時代でした。そんな環境の中でいつ終わるともしれない人間の命を、空海は次のように表現していました。
2. 昨日生まれたようであっても、髪にはすぐ白いものが混じる。今朝は元気いっぱいでも、明日のゆうべは病を得て死んでしまうこともある。だから、悟りを開きたいと思うのなら、一日でも早く学びを実践し始めることが大切だと説いたのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)